

2018-2019年度

和漢古典籍研究分科会

研究発表

書写資料における 書誌作成の課題と対応

発表内容

1. 和漢古典籍研究分科会概要
2. 2018-19年度活動報告
3. 研究報告
「書写資料における書誌作成の課題と対応」

1. 和漢古典籍研究分科会概要

○ 目的

日本や中国・朝鮮半島などで刊行された古典籍資料について、大学図書館職員として必要な書誌学の基礎知識・書誌作成の方法を習得することを目指す

○ 対象

古典籍に興味のある方ならどなたでも

○ 会員

正会員 4 名 講師 1 名 (2019/12/19現在)



分科会活動風景

発表内容

1. 和漢古典籍研究分科会概要
2. 2018-19年度活動報告
3. 研究報告
「書写資料における書誌作成の課題と対応」

2. 2018-19年度活動報告

○月例会

開催月	内容
2018年 4月	自己紹介・引き継ぎ・開催日程調整・活動内容の検討・調書作成についての講習
5月	調書作成
6月	調書作成
7月	調書作成
10月	調書作成
11月	調書作成
12月	研究テーマ検討・調書作成
1月	研究テーマ検討・調書作成
3月	研究内容検討・調書作成

開催月	内容
2019年 4月	活動計画検討・予算計画検討・年間スケジュール確認・研究内容検討
5月	研究内容検討・調書作成
6月	研究内容検討・調書作成
7月	研究内容検討・調書作成
10月	研究報告大会準備
11月	研究報告大会準備
12月	研究報告大会準備
1月	
3月	



発表内容

1. 和漢古典籍研究分科会概要
2. 2018-19年度活動報告
3. 研究報告
「書写資料における書誌作成の課題と対応」

3. 研究報告

書写資料における 書誌作成の課題と対応

- (1) 書写資料とは
- (2) 書写資料における書誌作成時の課題
- (3) 調査事例
- (4) まとめ

3. 研究報告

(1) 書写資料とは

①書写資料について

日本目録規則（NCR1987R3）第3章 書写資料 3.0通則には、
「この章では、写本、手稿などの書写資料の記述について規定する。
また、その複製物をも対象とする。主として日本語で書かれた資料を
対象とするが、洋書にも適用できる。（略）」とある。

本研究報告においては、書写資料のうち、
江戸時代の「写本」を取り上げることとする。

② 写本の概略

◆日本における写本の歴史

615年 現存する日本最古の写本 法華義疏〔ほっけぎしよ〕

7世紀以後 多くの写経が行われた

一切経（記録に残る最初）、金剛場陀羅尼経（現存最古）

古写本

10世紀 かなの確立

連綿体→日本独自の写本の様式を生み出す

近世安土・桃山、江戸 商業出版が広まるが写本も根強く制作・享受

現存する写本の多くは江戸時代に作成されたもの

近写本



写本が書物の重要な位置を占めるのは**明治期をもって終わる**

新写本

◆写本の種類

【転写の方法】

①透写〔とうしゃ〕（透き写し・影写）

- 薄様〔うすよう〕を親本の上に置き、なぞり書き。
- 写式（行数・字数・字高など）はもちろん、忠実に再現。
- 「模写・臨模」という場合は、なぞり書きとは限らないが、忠実な再現を目的とした書写を指す。

②謄写〔とうしゃ〕（見取り写し・見取り書き・臨写）

- 親本を横に置き書写する。写本の多くはこれ。
- 忠実な再現を意図せず、テキストを転写。
- 誤写を防ぐため、写式は親本と同じにすることも多い。

③校合〔きょうごう〕

- 親本を写した後、それと違いがないかを改めること。
- 他の伝本を入手し、それとの差異を改めること。

【成立過程】

稿本（手稿本、初稿本・再稿本）
草案本 中書本



定稿本
清書本

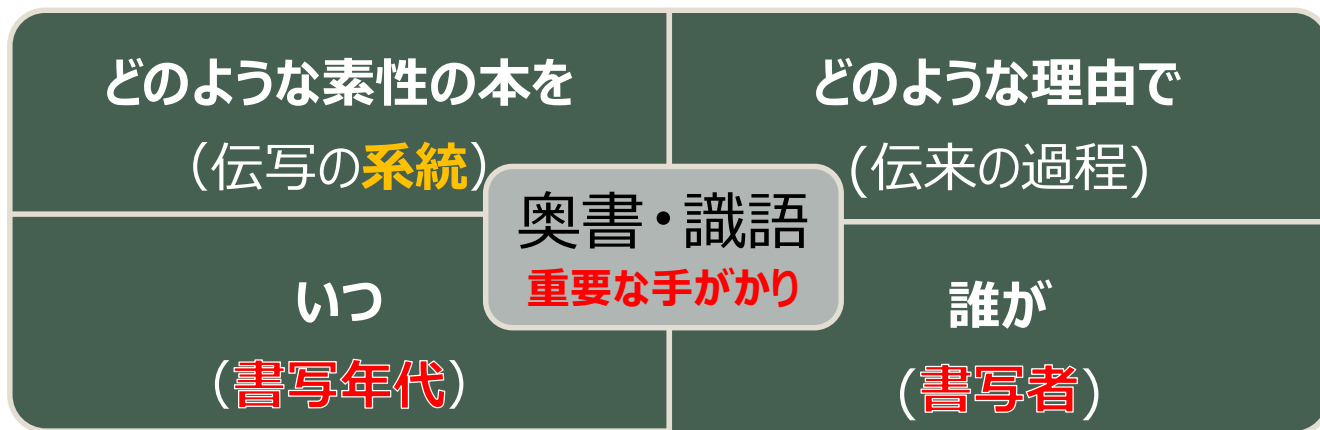
写本 （鈔本）

転写本

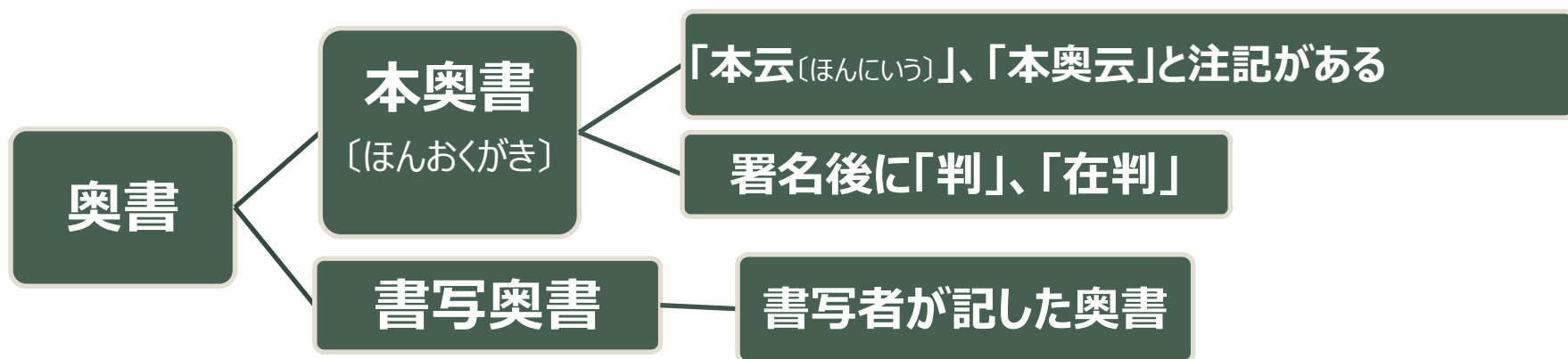
- 透写
- 謄写
- 校合

自筆本

◆ 奥書・識語



◆ 本奥書・書写奥書



自筆本

(本文……)
①この書を著す
昭和十年十月二十二日

和漢太郎


書写

転写本

(本文……)
①この書を著す
昭和十年十月二十二日

和漢太郎
在判

A

②学問のためにこの書を写す
平成元年春

和漢次郎


書写

書写

(本文……)

①この書を著す
昭和十年十月二十二日

和漢太郎
在判

C

②学問のためにこの書を写す
平成元年春

和漢次郎
在判

③参考のためにこの書を写す
平成二十年冬

和漢三郎


①②③→奥書
黒字→本奥書
赤字→書写奥書

(本文……)
①この書を著す
昭和十年十月二十二日

和漢太郎

B

* 平成十年に書写したが、
②を写さず、書写年や
署名を書かない。

本奥書か書写奥書か
墨色・書風・紙質・装丁などから総合的に判断しなくてはならない。

◆校合奥書、その他

加証奥書

相伝奥書

校合奥書

勘注奥書

書写時より後に記されたもの⇒書写年時と混同してはならない

箱、極札〔きわめふだ〕、添状

本の伝来を知る上で重要な情報を与えてくれることも

◆偽奥書

架空、捏造

他の本からの転記
(転記ミス)

書誌学的知見や本文研究

3. 研究報告

(2) 書写資料における 書誌作成時の課題

① 書誌作成に必要な項目

NCR（1987改訂3版／2018）・NIIコーディングマニュアル（和漢古書に関する抜粋集）より

◆タイトル・編著者（責任表示）

例）癸丑日記第一 / 服部方行 [著] | キチュウ ニツキ ダイイチ

■タイトル

所定の情報源から転記。記載がなければ資料外の情報によって選定。それでも選定できなければ目録担当者がタイトルを付す。

■編著者（責任表示）

所定の情報源から転記。記載がなければ、参考資料を調査の上、補記。

◆書写事項（出版・頒布等に関する事項）

例）[書写地不明]：服部方行[自筆]，[嘉永6（1853）]

■書写地

所定の情報源から転記。不明の場合は、[書写地不明]と補記。

■書写者

自筆・転写者ともに転記。転写であれば[写]を付して記録する。自筆の場合は[自筆]を付す。不明の場合は[書写者不明]と補記。

■書写年

出版年に代わり、書写された年を記録する。不明の場合は[書写年不明]と補記。

→奥書の種類に関する注意点は特に書かれていない。

【参考】日本古典籍書誌レコード作成要領 (国文学研究資料館)

◆3. 7 書写事項

書写に関する下記の事項〔発表者注：書写者・書写地・書写年〕を記入する。最終書写記であると判断できる場合にのみ記入する。奥書等に記載があっても、その資料の実際の書写に関するものか判断がつかない場合、また転写本の場合の以前の書写に関する事項はここには記入せず、書写に関する注記（3. 13. 4）に記入する。記入に際しては、判断が必要になるので十分な注意を要する。

②研究者の見解から 書誌作成時の注意点を考える

◆日本古典籍講習会資料

■ 落合博志「写本について『写本の書誌における諸問題』」(2016年)

「書写年代と製作の事情（書写者・場所・動機目的など）、および伝写の系統」が重要。

「本奥書（親本にあった奥書）か書写奥書（当該の写本において書かれた奥書）かの判別、および内容的に信憑できるか否かの真偽の判断が不可欠」。

「書写奥書のない写本の場合、書写年代は墨色・書風・紙質・装訂・表紙などから総合的に判断しなければならない。」

■ 海野圭介「写本について―奥書・識語を中心に」(2019年)

書写年代の判定について

「奥書・識語に記される書写情報が書物そのものの成立事情を伝えているか否かは、上記〔発表者注：本奥書・書写奥書・校合奥書・偽奥書など〕の要素を念頭に置いた上での総合的な判断が必要とされる（紙質・書風・装丁・装飾の状態などを併せて考える必要がある）。」

→奥書の判別と総合的判断が必要

◆堀川貴司『書誌学入門』(勉誠出版、2010年)

■奥書のある場合

- その本の位置づけを知るうえで最も大事な情報のため、奥書は忠実に写し取る。→調書作成時に奥書を記録する。
- 最新の年時の奥書 ≠ 書物の成立年時
- 書物全体の観察して得られた結果と奥書の年時とが矛盾しないかをよく考える。

■奥書のない場合

- 無刊記の版本より奥書のない写本に出会うことの方が多い。
- 知られている書物であれば、「成立年を上限として、装訂・紙質などの物理的な面と、筆写の様子（写式や字様）などを総合的に判断」する。
- 蔵書印などによって所蔵者が推定できれば、書写年の下限となる。

排印本(活版) 油印本 拓本 景昭本

書名ヨミ									
④ 本文巻首題等									
⑤ 版式									
辺 界 行 字 (注文) 行) 首書 (注文・校字・評語) 圖點 批語 口 魚尾 版心題 内匡郭 × 欄 二段本 三段本 (内寸) × 欄) 白文 返點 訓點送仮名付 句讀點 (有・無)									
版心注記事項 邊諱・刻工名・刻字数 和文(平仮名・片仮名・平仮名漢字交じり・片仮名漢字交じり)									
⑥ 巻尾題									
⑦ 巻尾題・附録等 (附録 種)									
⑧ 刊記・奥付等									
奥書はここに転記する									
⑨ その他所見									
⑩ 出典等									
東研目	頁	人研目	頁	内閣目	頁	国経目	巻	頁	
和刻目	頁					古典経	巻	頁	

◆川瀬一馬『書誌学入門』(雄松堂出版、2001年)

■ 筆跡による書写年の判別法

「上手な筆蹟は古く見え、下手な筆蹟は新しく見えるということがあるので、下手な方が時代の判別がむづかしい。」

■ 後から書き足された奥書の見分け方

古く見せようと字形をまねるため、筆勢がなくなる。

紙の目が締まっているところに書き加えるため、水をかけると墨が流れる。

3. 研究報告

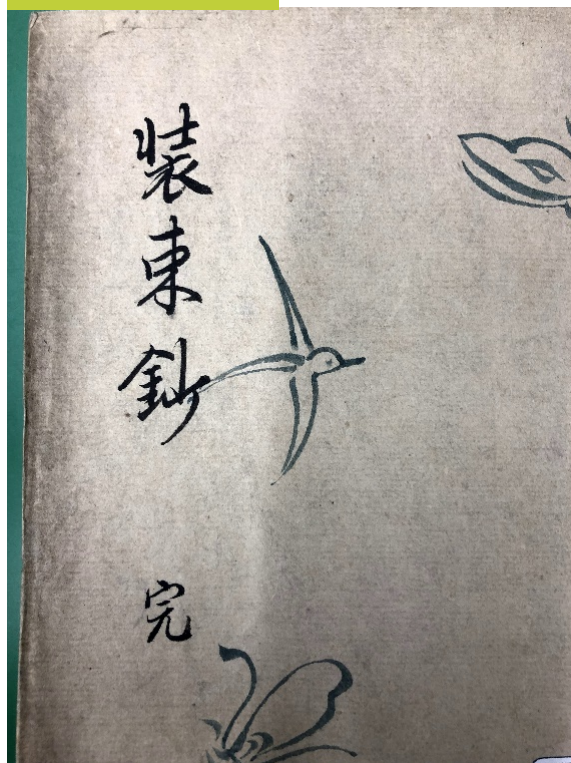
(3) 調査事例

①「後照念院装束抄」

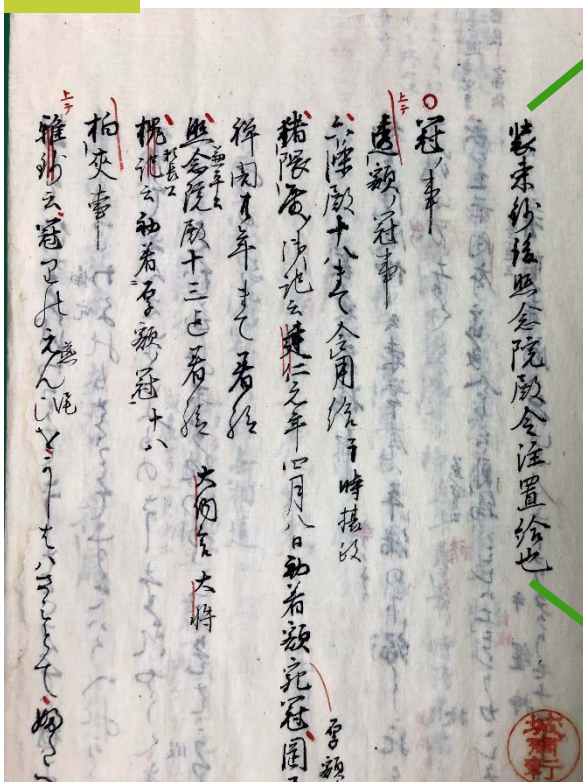
書名・著者名が確定できた事例

外題（装束鈔）から工具書を調べたが、「装束抄」は複数件記載があり、どれが該当するか選択できない

表紙 外題



巻首



装束鈔後照念院殿令注置給也

中央大学図書館所蔵（以下、中大本とする）

巻首（「装束鈔後照念院殿令注置給也」）からデータベースで検索

著作ID	189913
統一書名	後照念院装束抄(ごしょうねんいんしょうぞくしょう)
巻冊	一冊
別書名	[1] 後照念院殿装束抄(ごしょうねんいんぎやうぞくしょう) [2] 装束抄(しょうぞくしょう)
分類	有職故実
著者	鷹司／冬平
著作注記	〈備〉日本古典文学大辞典に解説あり
国書所在	【写】内閣（「家伝鈔」、二部）（「装束鈔」）、静嘉、宮内省（「装束抄」）（「装束鈔」）（「家伝鈔第三装束抄」、三部）（「装束家伝鈔三」）、宮書伏見（享保三）、東博（安政四写）、岡山大池田、学習院、京大（三部）（「家伝装束鈔」、元禄一家伝鈔三）（「装束鈔」、宝暦七写）、教大、東大、東大本居、東北大狩野（享保一〇写、二部）、鶴舞（河村秀根写）、彰考、神宮、尊経（「装束抄」）、茶園小笠原（「装束」久遠（享和二写）（「後照念院冬平公装束抄」、江戸中期写一軸）、無窮神習（結城秀延本）、〔補遺〕静嘉（装束雑事抄等を付す）（令義解序注を付す）、電谷（「装束家伝鈔、類従装束

書名は
「後照念院装束抄」
かも？

宮内庁書陵部所蔵資料と比較

5 後照念院装束抄, 書陵九条, 九・515, 写, 江戸期, 1巻, 29235506 K

6 後照念院摂政冬平公記／装束抄, 書陵部, 20-553-10, 写, 1冊, 100182441 M

image

7 家傳抄, 名古屋鶴舞図, 89-117-7, 写, 1冊, 100132018 M

内容はほぼ同一

■ 書陵部本奥書

「右一本美公謹拜借奉許令書写之訖／于時享保七秋仲季中旬校合之／資栄〔花押〕」

→中大本になし

※享保7年 = 1722年

データベースの検索結果から、著者が判明

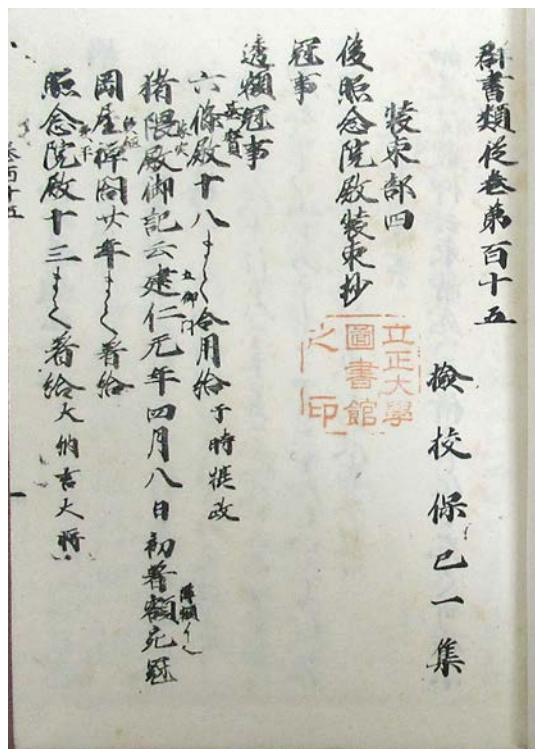
著作 I D	189913
統一書名	後照念院装束抄(ごしょうねんいんしょうぞくしょう)
巻冊	一冊
別書名	[1] 後照念院殿装束抄(ごしょうねんいんのしょうぞくしょう) [2] 装束抄(しょうぞくしょう)
分類	有職故実
著者	鷹司/冬平

「国書人名辞典」で著者の確定

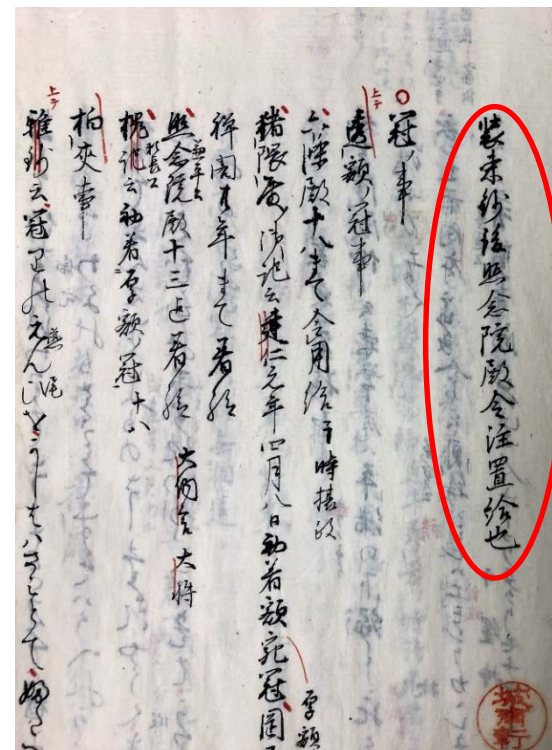
「鷹司冬平 … (略) … [名号] 本姓、藤原。名、冬平。
号、後照 (称) 念院。」

国書人名辞典より

■『群書類従』との比較



『群書類従』(A99/31/155)
立正大学古書資料館所蔵



中大本 (K210.098/Ta55)

目録作成例

TR : [後照念院]装束抄 / [鷹司冬平著]

PUB : [書写地不明] : [書写者不明], [書写年不明]

PHYS : 1冊 ; 23.7× 17.9cm

NOTE : 和漢古書につき記述対象資料ごとに書誌レコード作成

NOTE : 写本

②「烏帽子考」

書名・著者名・書写年代が推定できた事例

■合写本 1冊

○ 烏帽子考（えぼしこう） ※奥書なし

○ 平禮考（ひれこう）

奥書「安永六年丁酉九月八日 伊勢平蔵貞丈」

※安永6年 = 1777年

○ 見聞諸家紋（けんもんしょかもん）

奥書「天明八戌申十月十八日写之 刑部源左檀子」

※天明8年 = 1788年

【問題点】

1. それぞれの著者は誰か？

2. 三つの著作に何か関連はあるか？

3. 刑部源左檀子 = 書写者？ 天明8年 = 書写年？

工具書による調査

- ・『国書総目録』 →「烏帽子考」は伊勢貞丈の著作。
「見聞諸家紋」の著者は未詳
- ・『国書人名辞典』 →「平禮考」は伊勢貞丈の著作。
ヨミは『国書読み方辞典』にて「ひれこう」と確認。

※伊勢貞丈…故実家。生没年は1717-1784年。
通称「平蔵」（『国書人名辞典』参照）。

「平禮考」の奥書「安永六年丁酉九月八日 伊勢平蔵貞丈」

→伊勢平蔵貞丈＝著者。安永6年＝「平禮考」の成立年。

自筆本ではないため本奥書。

データベースによる調査

著作ID	111193
統一書名	烏帽子考 (えぼしこう)
巻冊	一冊
分類	武家故実
著者	伊勢／貞丈
著作構造	叢書の内(61), 叢書巻号(巻二四)
親著作	神風叢書
国書所在	【写】国会, 内閣(二八冊本安斎叢書二六)(二七冊本安斎叢書一三)(神風叢書二四)平将監写、烏帽子問答等と合), 学習院(貞丈叢書の内), 京大, 教大(藝烏帽子考を付(弘化三写), 東北大狩野, 大阪府(保侶衣推考と合), 彰考(烏帽子問答・平礼考等と(二部), 福井久蔵(飯島本、平礼考と合), [補遺] 国会(直垂勘物大意を付す)
著作種別	和古書
国書	『国書総目録』所収, 1

「親著作」に「神風叢書」
「国書所在」に「神風叢書」と
「安斎叢書」あり

＊「国書所在」の情報は、『国書総目録』でも確認可。

「神風叢書」と「安斎叢書」を検索

著作ID	1089823
統一書名	神風叢書 (かみかぜそうしょ)
巻冊	二四巻後編三〇巻五四冊
別書名	[1] 安斎叢書(あんさいそうしょ)
分類	武家故実
著者	伊勢ノ貞丈
著作構造	叢書
子著作	矢羽文考, 鳥柴考, 春日神殿飾馬画, 東鑑不審問答, 鎧具考, 白鎧色目, 紫芝純, 保侶衣邪説, 禁色考, 三議一統之辨, 伊勢因州旧記, 曾我物語の内, うつほの事, 乗物考, 勘, 鎧色談, 栴檀鳩尾問答, 襯襦袢背問答, 馬上三物絵評論, 笠掛引目考, 蛸考, 辨慶七道具考, 孝問伊勢平蔵貞丈答, 赤鳥考, 軍神問答, 烏帽子折問答, 神道独語, 五六掛鎧考, 鳴弦臺目考, 狩狩袴, 引倍支板引考, 押字考, 考説, 甲冑名考, 田楽考, 射家妄説集, 菅像辨, 辨, 扶桑見聞私記, 姓氏辨附説, 南嶺子評, 秋斎問語評, 南嶺遺稿評, 高忠軍陣聞書, 雑説問答, 法量之物歩立聞書, 御保侶衣推考, 源家八領鎧考, 本朝軍器考標疑, 鞍鐙工記, 諸鞍日記考註, 烏帽子考, 平礼考, 見聞諸家紋
国書所在	【写】内閣 →所蔵は内閣文庫のみ

「烏帽子考」
「平礼考」
「見聞諸家紋」
の記載あり

*「安斎叢書」の著作IDは「255889」。「子著作」の記載なし。

内閣文庫など所蔵多数。

『内閣文庫国書分類目録』の記載

◇安齋叢書 28巻28冊（153/279）。内務省旧蔵。
「烏帽子考」「平禮考」「見聞諸家紋」が**巻26（第26冊）**に収録。

◇安齋叢書 27巻14冊（153/289）。内務省旧蔵。
「烏帽子考」「平禮考」「見聞諸家紋」は**巻25（第13冊）**に収録。

◇神風叢書〔安齋叢書〕 24巻後編30巻54冊（218/26）。
昌平坂学問所旧蔵。
「烏帽子考」「平禮考」「見聞諸家紋」は**巻24（第24冊）**に収録。

* 『内閣文庫国書分類目録』下（内閣文庫、1961年）、909-911頁

中大本は「安齋叢書」が「神風叢書」の転写本か。
中大本の冒頭（右下）に「二十四」→親本の巻数か。



中大本

中大本と「神風叢書」（内閣文庫本）の比較

■全体

改行位置と丁移り（≡改頁）の箇所、丁数が共通する
→中大本と内閣本とはかなり近い関係にある。

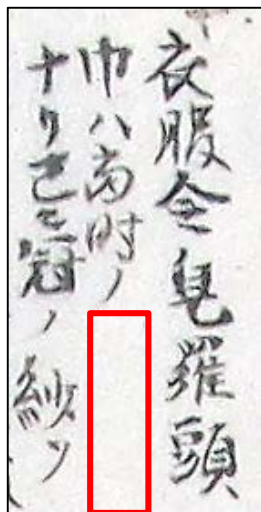
■「烏帽子考」の注目点

烏帽子考	中大所蔵（中大本）	内閣文庫所蔵（内閣本）
頭注	途中に空白がある	空白なし

→中大本の親本に空白があったか、虫食いなどで判読できなかった可能性あり。

（例）

中大本



空白がある

衣服令皂羅頭
巾ハ當時の漆紗冠
ナリ巴二冠ノ紗ヲ

中大本と「神風叢書」（内閣文庫本）の比較

■「平禮考」の注目点

平禮考	中大所蔵（中大本）	内閣文庫所蔵（内閣本）
附録の末	記載なし	「寛政十戊午八月十四日」 （寛政10 = 1798）

→中大本の親本に寛政10年の奥書がなかった。

or 奥書はあったが写さなかった。

* 寛政10年の奥書は「神風叢書」の書写奥書ではない。

「神風叢書」の最も新しい奥書の年時

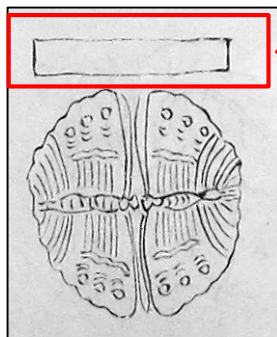
【前編】巻23（第23冊）「諸鞍日記考註」の寛政12年（1801）

【後編】第36冊 「奉問」の文政12年（1829）11月

■「見聞諸家紋」の注目点

見聞諸家紋	中大所蔵（中大本）	内閣文庫所蔵（内閣本）
家紋と注記	内閣本より詳しい箇所あり	中大本より簡略な箇所あり
校合の跡	青色の墨で校合	なし
末	「天明八戌申十月十八日写之 刑部源左檀子」	「天明八戌申十月十八日写之 刑部源左檀子」

(例)
中大本



内閣本
になし



校合による書き入れ。
内閣本は「片」のみ。

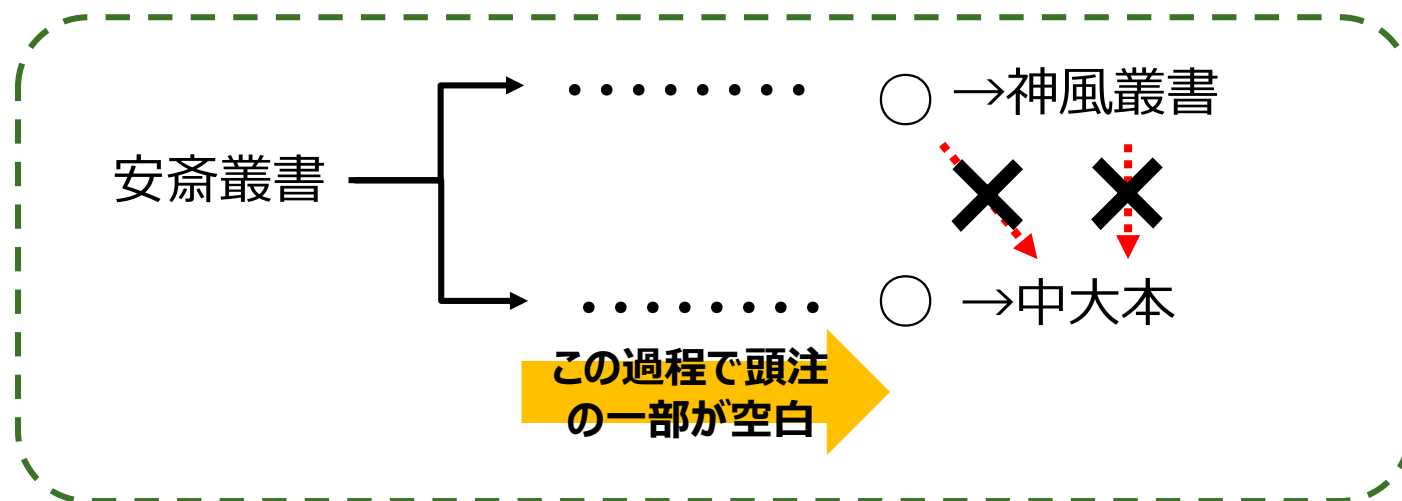
天明8年（1788）の奥書が共通＝書写奥書ではない。

天明8年の奥書は、「安斎叢書」（「神風叢書」含む）の系統に見られる特徴。

＊秋田四郎「見聞諸家紋」群の系譜（『弘前大学國史研究』99、1995年）、参照

中大本と「神風叢書」の関係

- ・「烏帽子考」頭注…内閣本に文字がある箇所を中大本が空白にしている
 - ・「見聞諸家紋」の家紋・注記…中大本にあって内閣本にない記述あり
- 中大本は「神風叢書」を写したもののでも、
「神風叢書」の親本を写したもののでもない。



* 更に検討するためには、複数の「安斎叢書」を集めて比較する必要がある。

旧蔵者による書写年の検討

- (1) 中大本「烏帽子考」の蔵書印「大江秀貞□」
- (2) 中大本「烏帽子考」は御橋恵言旧蔵書
- (3) 御橋恵言旧蔵書の中に、「安斎叢書」収録タイトルの合写本「軍神問答」「諸説問答（雑説問答）」あり



■「軍神問答」「諸説問答」の中大本奥書

	軍神問答	諸説問答
奥書	「…／嘉永三庚戌正月」 * 嘉永3年 = 1850年	「…／文化十癸酉年冬十一月 大屋氏大江秀貞」 * 文化10年 = 1813年

- ・「諸説問答」奥書の「大江秀貞」＝「烏帽子考」蔵書印の「大江秀貞」。
- ・「烏帽子考」の書写年は大江秀貞の没年より前。
- ・大江秀貞の生没年は未詳だが、1813～50年には生存。江戸後期の人物か。

目録作成例

TR：烏帽子考 / [伊勢貞丈著]．平禮考 / 伊勢平藏貞丈 [著]．

見聞諸家紋||エボシ コウ. ヒレ コウ. ケンモン ショカモン

PHYS: 1冊 ; 27.4×19.0cm

PUB：[書写地不明]：[書写者不明], [江戸後期]

NOTE：和漢古書につき記述対象資料ごとに書誌レコード作成

NOTE：写本

NOTE：「烏帽子考」「平禮考」「見聞諸家紋」の合写本

NOTE：烏帽子考：3丁、平禮考：5丁、見聞諸家紋：24丁

NOTE：見聞諸家紋：本奥書「天明八[1788]戌申十月十八日
写之 刑部源左檀子」とあり

NOTE：『安斎叢書』の一部を書写したものと推定

NOTE：印記「大江秀貞□」

NOTE：御橋恵言旧蔵書

③「射法弓禮書」

情報（出版事項）の少ない事例

書写年代などが不明であったため、
会員館2校の蔵書を比較した。

	中大本	日体大本
表紙	なし	あり 書き題簽に「射法弓禮書 二」とあり 「弓術指南秘巻」と墨書あり （「射法弓禮書 一」も所蔵あり）
筆跡	行書体に近い	楷書体に近い
図	彩色されている図あり 図をやや丁寧に描いている	彩色されている図はない 図がやや雑？
行数	9行（半丁）	8行（半丁）
奥書	なし	なし
蔵書印	なし	「源姓」「照武」
紙質	透かして見える繊維が太くて長い	透かして見える繊維が細くて短い

目録作成例

中大本

TR：射法弓禮書

PHYS: 1冊；28.1×18.6cm

PUB：[書写地不明]：[書写者不明], [書写年不明]

NOTE：和漢古書につき記述対象資料ごとに書誌レコード作成

NOTE：写本

NOTE：巻頭に「射法弓禮書第二」とあり

日体大本

TR：射法弓禮書

PHYS: 1冊；26.4×18.8cm

VT：OH：弓術指南秘巻

PUB：[書写地不明]：[書写者不明], [書写年不明]

NOTE：和漢古書につき記述対象資料ごとに書誌レコード作成

NOTE：写本

NOTE：書き外題の書名:弓術指南秘巻（題簽の右側に被る）

NOTE：左肩書き題簽「射法弓禮書 二」

NOTE：巻頭に「射法弓禮書第二」とあり

NOTE：印記「源姓」「照武」

**筆跡や紙質などに基づき、
強引に「書写年」を推定する場合**

中大本 江戸後期前半

日体大本 江戸後期後半

3. 研究報告

(4) まとめ

【事例①】

調査によって書名や著者名などが判明する例。

【事例②】

合写本・奥書・蔵書印など、様々な情報がある。親本を含め、各タイトルを調査したり、他本の奥書などと比較することで、書写年をある程度絞り込むことができる例。調査をしないと書写年を誤る。

【事例③】

奥書など、書写年を考える手がかりがまったくない例。
他本との比較や紙質などによって、書写年時を考えざるを得ない。巻数についても調査が必要。

様々な方向から調査・検証することが必要。

写本の調査方法

- 工具書やデータベース、さらには関連論文を参照し、人名や書名を調査・確認する。
- 本文の中からヒントを探す。
- 他本を探し、奥書や識語を比較する。
- 他本と白館の本文を比較して書写年の前後関係を考える。
（他本に書写年が明記されている場合は特に有効）
- 同一寄贈者の文庫内で関連する蔵書を探す。
（書写者などが判明する場合もある）
- 蔵書印を調査し旧蔵者を特定する。
（旧蔵者の生没年から書写年を推定できる）
- 表紙や紙質、装訂、筆跡などからヒントを探す。

※教員に意見を伺うという方法もある。

次期会員募集

- 貴重な資料を実際に手に取りながら、
書誌作成方法を基本から習得することができます。
- 自館で所蔵する和漢古典籍資料について目録をとれる
ようになりませんか？
- 初心者大歓迎！
- ご興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

皆様のご参加をお待ちしております。